

令和4年10月24日
(2022年)

保護者の皆さまへ

吹田市立千里丘中学校
校長 古本 隆

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

●国語《概要》

全体の平均正答率は全国値を上回っている。これまでの学習の成果が表れている。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

正答率は全国値を上回っている。ただし、「スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く」設問ではやや苦戦したようである。今後、授業等での発表時に考えた過程と合わせて意見を言えるように指導していく。

【情報の扱い方に関する事項】

正答率は全国値を上回っている。全国的に見ても解答しにくい設問であったようだが、工夫して答えている様子が見える。

【我が国の言語文化に関する事項】

正答率は全国値を上回っている。ただし、「行事の特徴を踏まえた書き方について説明したもの」を選択する問題は正解にたどり着ける生徒が全国の傾向と同様にその他の問題よりも低くなっている。今後、選択肢を丁寧に吟味する練習の機会を増やしていく予定である。

【話すこと・聞くこと】

正答率は全国値を上回っている。スピーチに不慣れな様子も見えるので、授業での活動に取り入れていくことを検討したい。

【書くこと】

正答率は全国値を上回っている。正解、不正解を含め、多くの生徒が自らの考えを書くことができている。

【読むこと】

正答率は全国値を上回っている。大半の生徒が登場人物の心理を丁寧に追うことができていた。

●国語における成果と今後の改善点について

全体として、これまでの学習の成果が表れた結果となっている。特に、漢字の書き取りや、語句の意味を答える問題については正答率が高く、語彙力が培われてきた結果として捉えることができる。
スピーチや発表時に、考えを整理しわかりやすい言葉を使って伝えることに課題が見えるので、授業やその他の活動時に練習を繰り返していきたい。

●数学《概要》

平均正答率は全国値を上回っており、学習の成果が見られる。

【数と式】

どの問題についても全国値を上回っているが、「簡単な連立二元一次方程式を解くことができる」、「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる」の問題が正答率が低い。

【図形】

どの問題についても全国値を上回っているが、「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」の問題は無解答率が高かった。

【関数】

どの問題についても全国値を上回っているが、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」の問題が正答率が低い。

【データの活用】

全体的には全国値を上回っているが、「箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる」の問題だけが全国値を下回った。

●数学における成果と今後の改善点について

全体的には全国値を上回る結果となったが、上の概要にも述べた無回答率の高かった問題や全国値を下回った問題から、証明や説明する問題やデータの活用の問題の基礎や応用問題の練習不足である。
この結果を踏まえて、復習や応用問題など取り組んでいきたい。

●理科《概要》

平均正答率は全国値を上回っており、学習の成果が見られる。

【エネルギー】

領域全体の平均正答率は全国値を上回っているが、「日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する」問題では全国値をやや下回っている。基礎から応用まで学力は身につけているが、学習内容と日常生活を結びつけて考える力がやや不足しているといえる。

【粒子】

領域全体の平均正答率は全国値を上回っている。「水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する」問題での正答率が低く、エネルギーと粒子の2領域にまたがった問題に少し課題が見られた。

【生命】

領域全体の平均正答率は全国値を上回っているが、「生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する」問題では全国値をやや下回っている。結果だけでなく、その過程を考察する力がやや不足している。

【地球】

領域全体の平均正答率は全国値を上回っているが、「陸上のB地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、推論が必要であることを指摘する」問題では全国値を下回っている。問題文を適切に理解し、しっかりと考察する力を向上させる必要がある。

●理科における成果と今後の改善点について

全体的に学習の成果が見られ、特に「生命」の領域では正答率が高かった。一方、複数領域にまたがる問題や文章を読み取って考察する問題には課題が残ったため、今後、総合問題や思考力をつける応用問題にも取り組んでいきたい。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

○肯定的回答 ×否定的回答 ↑↓→一昨年との比較

☆良好な結果 ★課題あり

※ 全国(公立)値と大阪(公立)値を、千里丘中と差がある項目については記載しています。記載のない項目については、同等程度の数値となりました。

(1) 自分自身のことについて

- | | |
|------------------------|-------------|
| ☆「学校に行くのは楽しい」 | ○87% (—) |
| ☆「自分にはよいところがある」 | ○82% (↑5P) |
| ☆「自分でやると決めたことはやり遂げる」 | ○87% (—) |
| ☆「難しいことでも失敗を恐れず挑戦している」 | ○74% (↑10P) |
| ☆「いじめはどんな理由があってもいけない」 | ○99% (↑1P) |

全国と比べても、全体的に肯定的な回答が多く、自己肯定感が高い生徒が多い学校であるという結果となりました。特に、「難しいことでも失敗を恐れず挑戦している」という質問では、肯定的な回答率が全国の結果を大幅に上回っています。一人ひとりが自分のことを大切にし、なおかつ部活動や進路に対して前向きに取り組んでいることがわかります。また、「いじめは許されない」と考える生徒がほとんどであり、近年吹田市で実施しているいじめ防止授業の成果を感じ取れます。

(2) 家庭生活について

- | | |
|-------------------|--------------------------------------|
| ☆「毎日同じ時刻に寝ている」 | ○82% (↑2P) |
| ☆「毎日同じ時刻に起きている」 | ○92% (↑2P) |
| ☆「朝食を毎日食べている」 | ○91% (↓2P) |
| ☆「家で自分から計画的に勉強する」 | ○56% (↓10P) |
| ☆「普段1日当たりの勉強時間」 | ○2時間以上 44% (↓12P)
全国(35%) 大阪(39%) |
| ☆「普段1日当たりのゲーム時間」 | ○2時間以上 48% (↓14P)
全国(50%) 大阪(57%) |

概ね規則正しい生活を送っています。勉強に対しては、全国の結果と比べると、自ら積極的に勉強している生徒が多いですが、千里丘中学校の前年度の結果と比べると、勉強に対する意識が低いという結果になりました。一方で、「1日当たりのスマホ・ゲームの時間」も前年度の結果と比べると、少なくなっています。家庭での勉強時間やスマホ・ゲームの時間が減っており、それ以外の別の過ごし方をしている生徒が増えているようです。今後も、自主的に計画を立て学習に取り組む姿勢の大切さを説きながら主体的に学ぶ姿勢を培っていきます。

(3) 地域・社会等について

★「地域や社会のために何をすべきかを考える」

×何をすべきか考えない 58% (↓4P)

★「地域行事の参加」

×参加しない 75% (↑6P)

★「1日の読書時間」

×全くしない 35% (↓12P)

○30分以上 22% (↑3P)

地域や社会に関する質問では、社会での出来事に関する興味関心の部分で、否定的な意見の割合が高い結果となりました。「地域行事への参加」については、コロナ禍による影響からか、否定的な意見の割合が年々高くなってきています。今後、身近な社会である地域に多様な関わりをもてるよう啓発を行っていきます。読書に関する質問では、読書を全くしない割合は前年度に比べて低くなっており、全国の割合と比べても良い結果が出ています。しかし、さらに多くの生徒に本への興味関心を持ってもらうためにも、図書室の活性化を図る必要があると考えます。

(4) 調査教科について (肯定的回答 単位%)

	好き	大切	よくわかる	社会で役立つ	記述問題に対して努力した
国語	54	89	83	84	81
数学	54	79	77	72	63
理科	54	71	74	58	77

数学、国語、理科のすべてに苦手意識はあるようですが、記述問題には比較的高い割合でしっかり取り組む姿勢を持っています。どの教科も大切、社会で役に立つと考えている生徒が多く、将来の必要性を大きく感じ取り前向きに取り組もうという意識が見て取れます。

今後も引き続き「できる、わかった」という達成感が持てる授業づくりに取り組み、指導方法の工夫を続けていきます。